

横浜市立城郷小学校

令和2年度 学力向上アクションプラン

1 学校の状況と地域の実態

- (1) 授業研究を中心とした教員の研究・研修は定着してきている。仮説を位置付けたテーマに即した研究活動の充実には、さらなる工夫が必要である。
- (2) 経験の浅い教員が多く、基礎的な指導技術をより一層身に付ける必要がある。
- (3) 特別な教育的支援が必要な子どもへの対応が十分でない状況も見られる。学校での指導体制の構築が課題である。
- (4) 子どもたちの一日の家庭の勉強時間30分以下の子どもが5割以上、一日の読書量10分以下の子どもが5割以上と家庭における学習環境が十分には整っていない。
- (5) 地域ボランティアを活用した学習を積極的に取り入れ、学校・家庭・地域との連携による学習を推進する努力をしている。

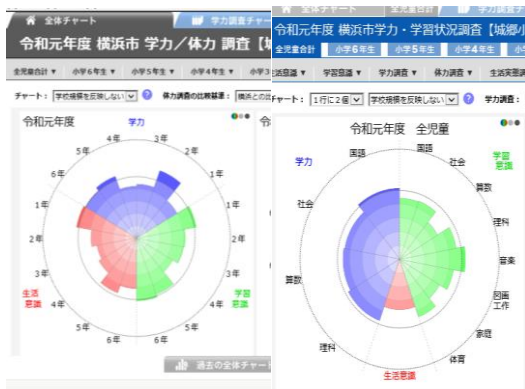
2 中期学校経営方針「確かな学力」 達成目標

(2) 学力向上に関する指導の目標・方針（令和2年度末の姿）

- 言語活動を中核に据えた自分の考えを表現できる学習の充実を図るとともに、より基礎・基本の定着を図り、算数や社会の市学力学習状況調査の標準化得点が市平均になった。さらに国語、理科は大きく向上し、平均を大きく上回った。
- 特別な教育的支援が必要な子どもの在籍する学級において安定した授業ができる指導技術を教師が身に付け、かつその手だてを充実させることで学力の向上を目指す。
- 放課後に教科担当者での授業改善の場を設け、わかりやすい授業づくりをめざす。

3 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力の概要と要因の分析



学力において横浜市の平均を上回る学年とそうでない学年が生じる結果となった。高学年は、学習意識が高いことが学力に反映しているといえるが、2年は、学習意識は平均を下回っているものの、学力は高い結果となった。中学年においては、前回学習意識は平均を下回っていたものの、学力は平均を保っていたが、今年度は学力も大きく下回った。この学年は生活意識も低いので、学校での取り組みだけでなく、家庭へ改善提案していき、底上げしていく必要がある。また、教科において前回算数以外は平均であったが、今回は社会も平均を下回っていた。この2教科の底上げをすると同時に国語、理科のさらなる向上を目指してより一層授業改善が求められている。

(2) 教科学習の状況

- 国語科：正確に読み取る力が身に付いてきている。基礎力だけでなく活用力も平均を上回った。
- 算数科：標準化得点において活用力は昨年より向上したが、基礎力が昨年より下回った。
- 社会科：基礎力、活用力ともに市の標準化得点を下回っただけでなく、昨年より大きく下げた。
- 理科：基礎力は、市の標準化得点に近いが、活用力が昨年同様下回った。

(3) 経年変化の状況と要因の分析（学習・生活意識調査も含めて分析）

学校全体としては、高学年の学力向上が図れ、2年の学力が著しく良い。横浜市の平均を上回り、学習意識も高くなったことが、学力向上につながってきたといえる。その反面、中学年の学力及び学習意識の低下が懸念される。この2学年の底上げこそが、学校全体の底上げにつながると考えられる。学習意識調査からみると、学習が楽しいと感じている子どもの割合が高くなれば、課題に取り組む姿勢が多く見られ、かつ活動にも積極的に取り組むことで学習したことを日常生活に活用する場面が多くなり、より理解力を高めることになると考えられる。授業改善の視点としてとらえたい。

4 平成31年度 目標と具体的方策

平成31年度 目標

言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習の充実

(1) 学校組織としての共通の取組

○ 取組み目標

言語活動を位置付けた自分の考えを表現する学習を充実させ、思考力・判断力・表現力の育成を目指す。

○ 具体的な取組み

- ①授業の中に言語活動（説明、報告、記録、対話、討論など）を必ず一つ以上位置付け、自分の考えを表現・交流する授業を行う。
- ②比較する、分類する、関連付けるなど、試行する活動を適切に位置づけ、自分の考えを明確にもつ授業を行う。

○ 言語活動の充実

1 学年「はじめのいっぽ」 ～みんなでなかよく できることをふやしていこう～

○国語科等で、説明する文章、紹介する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、できる限り対話をする場面を位置付ける。

○分からないこと、知りたいことを尋ねたり、気持ちを表情や態度、言葉で表したりしながら対話する

3 学年「3ピース」

- ・よく考えて行動する
- ・よくきいて、思いを伝え合う子
- ・自分も友だちも大切にする子

○社会科等で見学・調査したことを説明する文章、記録する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。

○理由や根拠を尋ねたり、まとめたり補足したりしながら話し合う。

5 学年「大地」・視野を広げて、思考や行動も 広げていく・周回から進んで学ぼうとする姿勢を 大切にし、成長につなげようとする

○総合的な学習等で説明する文章、意見を述べる文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。

○相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら話し合う。

2 学年「きらり」～できる喜びを自信に 協力できる2年生～

○生活科等で、体験を通して自分の身のまわりのことで発見したことや伝えたいことを報告する文章や説明する文章を書くなど、表現活動を大切にするとともに伝え合う場面を位置付ける。

○大事だと思った点を確認めたり、関連した情報を提供したりしながら話し合う。

4 学年「四つ葉のクローバー」

- ・勇気をもってチャレンジする心
- ・話をよく聞き集中する心・互いのよさを認め合い、伸ばし合う心
- ・全体を考え、協調する心

○算数・理科等で説明する文章、記録、報告する文章を書くなど、表現活動を大切にします。

○反対の意見をだしたり、相手の考えを取り入れ自分の考えを述べたりしながら話し合う。

○国語の「言葉の宝箱」を使い、自分の考えや思いを伝える場面を増やす。

6 学年「One for all All for one」

一人はみんなのために、みんなは一人のためにという気持ちを大切に、学年一つになって何事にも取り組む

○今まで身に付けた様々な文章を書く力を自覚的に生かすことができるようにするとともに、話し合いをする場面を位置付ける。

○人の話をしっかり聞き、自分の考えをしっかりともち、集団の中での自覚をもちながら話し合う。

個別支援学級 できることをふやそう。人とのつながりを広げよう

○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を設けるようにする。

○子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行うようにする。

○子どもに応じたわかりやすい情報発信をするなど言語環境の整備を行うようにする。